



消防団



消防隊

特集/消防

# 四日市の消防

災害に強い安全なまち四日市を目指して

近年、消防を取り巻く状況は、災害の大規模化、救急需要の増大、コンビナート災害の対応など複雑多様化するとともに、市民からの期待も高まっています。

特に、平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、津波により多くの犠牲者が発生するなど、これまでの想定を大きく上回った大惨事となりました。

このような中、本市においては、「みんなが誇りを持てるまち四日市」を目指して、新たな総合計画が平成23年3月に策定され、基本計画の基本目標「誰もが自由に移動しやすい安全に暮らせるまち」を目指し、「消防力の強化・消防救急体制の充実」を図っています。

## ●消防本部の体制について●

管内(三重郡朝日町、川越町含む)には、消防本部のほか、中消防署・北消防署・南消防署の3消防署を置くとともに、港分署、西分署、中央分署、朝日川越分署、北西出張所、西南出張所をそれぞれ配置して、一人でも多くの市民の皆さんの「命」を守るべく、消防隊員たちは日々活動しています。

また、市内各地区には消防分団もあり、それぞれの地区にお住まいの皆さんが日ごろから消防団活動に取り組んでいます。





救助隊



救急隊



### 消防隊

火災が起きた時に出動し、消火活動を行います。平成25年に発生した火災は94件と過去10年で最も少なくなりました。



### 救助隊

火災で逃げ遅れた人や交通事故で挟まれた人の救出、海で溺れた人の救助などを行う隊で、平成25年は144件に出動しました。



### 救急隊

急病人やけがをした人などを緊急に病院へ搬送します。管内には救急車が10台あり、平成25年の出動は14,442件で、過去最多となりました。

### 消防団

市内には、災害が発生した時に出動する地域の25消防分団と、水防活動や昼間時の災害対応などに限定した活動を行う機能別団員があり、各地区の皆さんが日ごろから消防活動に取り組んでいます。火災や風水害などの災害発生時には、消火活動や救助活動を行い、平常時には、各地域で防災訓練や消火・応急手当の指導、防火・防災啓発活動を行っています。

また、本市には、女性消防団サルビア分団もあり、防災かるたや大型紙芝居などを使った子ども向けのワークショップなどを行っています。

〈消防署所・消防分団詰所の配置〉



# 救急ワークステーション

年々増加する救急需要に対して、更なる対応が求められています。また、市民の皆さんの大切な命を救うためには、救急隊員の迅速で適切な処置が欠かせません。

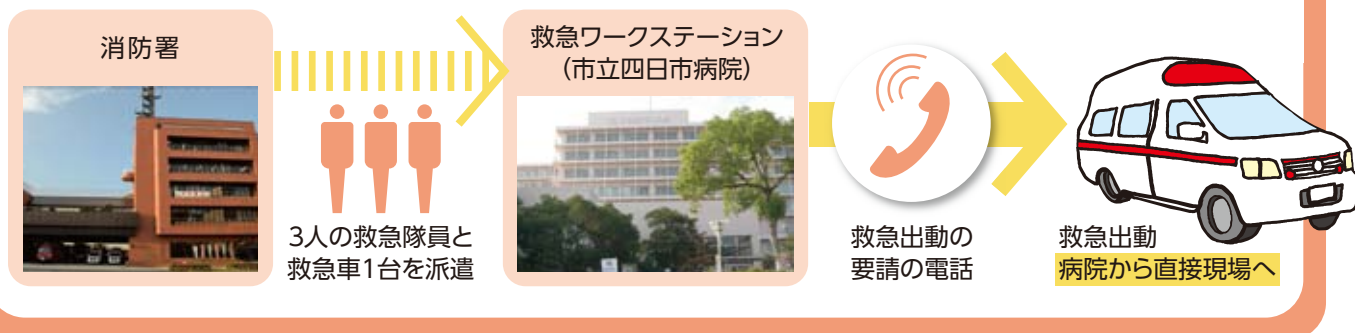
市は、新たな救急体制を構築し、救急サービスの向上につなげるとともに、高度な技術を有する救急隊員の養成のために、県内初の「救急ワークステーション」を開設しました。



## 救急ワークステーションとは

救急隊員が、平日の昼間に救急車で、市立四日市病院の救命救急センターに出向き、医師や看護師の指導のもと、処置の補助などの研修を行いながら、救急出動の要請があれば、病院から出動するもので、救急隊員の知識、技術の向上を目的とした教育の拠点です。

本市においては、平成26年4月1日から本格運用を開始しました。



## ● 研修内容 ●

救急隊員は、救急患者に対する問診などの基本技術の習得や、医師や看護師から、心肺機能停止状態の傷病者に対する心肺蘇生や静脈路確保(点滴)、薬剤投与などについて、指導を受けています。





市立四日市病院 診療部長  
救命救急センター長  
**市原 薫** 医師

医療は現場から始まっています。現場で処置ができない場合でも、救急隊員から情報を得ることで、病院到着までに処置の準備をすることができます。正確な情報を得るためにも、救急隊員には高い知識が必要です。

また、救急搬送後、医師・看護師・救急隊員で現場での観察がきちんとできていたか検証をするようにしています。消防と病院が一体となって、現場から医療を開始できるようになると、救命率が高まり、市民にとって、良いことになると思います。



中消防署 中央分署  
**稲垣 良崇** さん

救急隊の仕事は、限られた時間の中で治療につながる情報を得て、患者の状態を観察し、処置を行いながら早期に病院へ搬送することです。当然医師や看護師との連携が重要となります。

救急ワークステーションに派遣されることによって、医師や看護師との連携を深めることができるとともに、医師などから医学的な知識を学ぶことができ、また直接指導を受けて、静脈路確保など数多くの処置を行うことができることから、救急隊員にとって、とても有意義だと思っています。

## 医師・看護師と救急隊員の連携の強化

救急患者への観察や検査の補助、研修などを通して、医師や看護師と顔の見える関係づくりを進めます。また、医療機関と救急隊との信頼関係を築き、連携を密にすることで救急医療サービスの向上を目指します。

## 救急隊員の知識・技術の向上

救急隊員が病院内で、医師や看護師から直接指導を受けることができます。救急患者に対する初期の治療だけではなく、その後の経過を含めた総合的な研修を行うことで、救急隊員の処置技術が向上します。

これからも市立四日市病院と消防本部が連携して、一人でも多くの「命」を救えるよう取り組んでいきます。

## 知っていますか？救急医療情報キット

「救急医療情報キット」とは、自分の名前、既往歴、かかりつけ医、緊急連絡先などの情報を記入した用紙を円筒形のプラスチック容器などの中に入れ、冷蔵庫のドアポケットに保管しておくことで緊急時に活用するものです。

突然の災害や急病に備えて、ぜひ常備してください。救急医療情報カードは、消防本部のホームページからダウンロードできます。



右のQRコードからもアクセスできます。



# あらゆる災害に対応する消防隊

臨海部にコンビナートを抱える本市は、コンビナート災害などに備え、近隣の消防にない特別な車両や部隊を保有しています。

## コンビナート対応車両



本市には、危険物など水では消火困難な火災に対応するため大型化学高所放水車が配備されています。この車両は、化学車と高所放水車の2車両を1台にした消防車で、石油タンクやプラントが火災になった場合は、地上22mの高所から消火薬剤を放射することで消火を行います。また、長時間の泡放射が必要な場合には、消火薬剤を搬送する泡原液搬送車が大型化学高所放水車とともに出動します。

また、長時間の泡放射が必要な場合には、消火薬剤を搬送する泡原液搬送車が大型化学高所放水車とともに出動します。

## 水難救助隊



水難救助隊は、河川や海で発生した水難事故に対応するために組織されています。小型ボート・空気ボンベ・投光器などの資器材を用いて24時間水難救助活動を行っています。本市では、毎年水難事故が発生しており、潜水士(国家資格)という専門的な知識と技能を有した22人の水難救助隊員が活動しています。

## 特別化学隊



本市には、有害物質の漏えい、テロ災害に備えて、特殊な装備を備えた特別化学隊が組織されています。

目に見えない有害物質による災害が発生した場合には、化学防護服を着装し、さまざまな測定器を用いて、人命救助、化学物質の特定・除染などを行います。

## 高度救助隊



高度救助隊は、救助器具を積載した救助工作車と救助に関する専門的で高度な教育・訓練を受けた隊員で編成されており、火災はもとより、交通事故など24時間あらゆる災害に備えています。

また、平成22年から、海外で大規模災害が発生した場合、救助活動を行う国際消防救助隊(通称:IRT)に6人の隊員を登録しています。

## ●緊急消防援助隊●

緊急消防援助隊とは、平成7年の阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、地震時などの大規模災害が発生した場合に被災地で消火活動や救急救助活動などをより効果的かつ迅速に行うため、全国の消防機関が互いに応援体制が図られるよう創設されました。

緊急消防援助隊は現在全国で4,694隊(平成26年4月現在)が登録され、平成30年度には6,000隊を目標に取り組んでいます。

これまで緊急消防援助隊として全国各地で25回の活動実績があり、本市は三重県の代表消防本部として東日本大震災に出動しています。

### 東日本大震災での活動

本市としては、特にコンビナート災害に対応可能な車両と人員の協力要請を受け出動しており、22隊74人(三重県全体からは100隊344人)の緊急消防援助隊が出動し、千葉県市原市や宮城県仙台市で、コンビナート災害の対応や人命検索活動などを中心に活動しました。



消防本部 消防救急課  
中村 大介 さん

3月11日夜、三重県隊の先遣隊16人のうちの一人として出動しました。12日未明に着いた市原市のコンビナート

では、本市の高所放水車・化学車・泡原液搬送車により、爆発を防ぐためのタンク火災の防御活動を実施しました。その後、13日は仙台市へ移動して津波被害に遭った地区の救助活動に従事しました。

昨今、南海トラフ地震が危惧されていることから、この経験を今後の活動に生かしていきたいと思っています。



本市から出動した緊急消防援助隊(市原市)



本市から出動した緊急消防援助隊(仙台市)

#### 編集後記

先月、台風11号の接近に伴い三重県では初めての特別警報が発令されました。幸い大きな被害は免れましたが、今後も台風や豪雨による水害や南海トラフ地震をはじめとした地震災害など、これまでの想定を超えた災害の発生が危惧されています。消防本部といたしましても皆さんが安全、安心に暮らせるまちづくりを目指して消防力の強化、消防救急体制の充実を図ってまいりますのでご協力をお願いします。(消防救急課 今尾、広報広聴課 堀田)